

3月11日は山高防災の日

90周年事業の一環として2016年3月11日に制定されました。その目的は次のとおりです。東日本大震災から5年が経過したことで記憶の風化が懸念されるとともに、当時在籍していた本校生徒2名が、自宅で被災し尊い命が失われたことから、「山高防災の日」として記憶にとどめ、併せて本校生徒並びに職員の防災意識を高めることを目的とするものである。3月11日午後2時46分に防災放送でサイレンが鳴りますので、その時いる場所で黙祷を捧げましょう。

東日本大震災から15年

発災直後の山田高校は、町指定避難所として最大約1,300名の方々が利用しました。8月31日、県内最後の公共の避難所であった本校の避難所が撤去されました。また、東日本大震災の発災直後から、多くの国、地域、企業、学校、団体、個人の方々に支援や励ましをいただきました。その中には、今まで気づいていなかったつながりや、新しく生まれたつながりもありました。

当時、本校への支援には次のようなものがありました。学校の様子を交えながら紹介します。

H23.4.1 不來方高校音楽部 清らかな歌声に疲れた心が癒やされた。

H23.4.28 入学式 新人生と校長以外は普段着で出席した。グラウンドは自衛隊の車両で埋め尽くされた。

H23.5.29 青森県立名久井農業高校植栽活動 町内各所に合同で花を植えた。

H23.10.12～13 盛岡市立高校 新体操部 さいかち祭での特別講演が実現した。

H25.3.11 AKB48応援訪問コンサート 本校体育館でコンサートが開かれ、町内のこどもたちが勇気づけられた。

H25.10.19 神奈川県立逗子高校吹奏楽部 部活動交流の縁で、さいかち祭でも合同演奏を披露してくれた。



ふるさとの記憶を未来へ — 山田高校の防災の取組 —

震災から15年を迎える今年度、本校では「ふるさと探究」の学習の中で、防災・震災伝承に取り組んできました。1年生は地域に残る津波碑や過去の災害の歴史を学び、フィールドワークを通して先人の教えを読み取りました。また、その学びをもとに町内小学校で防災出前授業を実施し、石碑の意味や命を守る行動について自分たちの言葉で伝えました。2年生は震災伝承ガイドツアーの実施や、防災動画（子ども向け・海外向け）の制作を行い、伝える相手に応じた表現を工夫しました。ふるさとの記憶を学び、自ら考え、発信する取組をこれからも続けていきます。

